

連載

日本歯科医学会会長 住友雅人が聞く！

認定分科会編

今・躍動する日本の歯科学会

第14回：日本口腔リハビリテーション学会



覚道健治

かくどう・けんじ

1997年10月より、大阪歯科大学口腔外科学第二講座主任教授。2008年4月より、大阪歯科大学附属病院院長。2007年1月より、日本口腔リハビリテーション学会理事長。



住友雅人

すみとも・まさひと

日本歯科医学会会長。日本歯科大学名誉教授。日本歯科医学会総務理事・副会長、中央社会保険医療協議会（中医協）専門委員など、多数の要職を歴任。2015年7月より2期目を務める。

口腔リハビリテーション関連の学術的根拠を提供する専門団体

住友：まずは貴学会の概要について説明していただけますでしょうか。

覚道：本学会は日本顎頭蓋機能研究会として1987年に設立し、1993年に日本学術会議の登録団体となり、日本顎頭蓋機能学会となりました。

本学会が現在のような学会活動を行うことになったきっかけの1つとして、2006年に岡山市において窪木拓男大会長のもとで開催した第20回記念大会がエポックメイキングとなりました。「高齢化と口腔リハビリテーション」をメインテーマに、歯科医師のみならず歯科衛生士、看護師、歯科技工士などが多数参加し、従来の咬合を主体とした顎頭蓋機能障害の研究領域から咬合機能のみならず、咀嚼機能、顎関節機能、摂食・嚥下機能、口腔ケアなどを包含する口腔リハビリテーションに関する研究領域に拡大する契機となりました。

その後、2007年より私が理事長を務めさせていただき、2011年7月からは現在の日本口腔リハビリテーション学会に名称変更し、学会誌の内容の充実、会員の多様性、口腔リハビリテーション

認定医の輩出、財政基盤の確立に努め、関係諸団体のご支援もあり、2013年4月に日本歯科医学会の認定分科会に加入しました。会員構成は歯科医師や歯科衛生士が中心となっています。今後は準会員制度も検討していきたいと考えています。

学会が目指す口腔リハビリテーションにおける適切な評価

住友：口腔リハビリテーション医学・医療の方向性について説明ください。

覚道：口腔リハビリテーションは、歯や口の再建自体がリハビリテーションという概念の延長線上にありました。従来は咬合・咀嚼機障害に対する回復が中心でしたが、超高齢社会の到来によって、現在では①咬合・咀嚼機能②摂食嚥下機能③言語機能④味覚機能——4つの口腔機能障害を回復するという考え方に変わってきています。

歯質や歯、顎の欠損に対する診断と補綴歯科的治療は歯科医師、補綴物の製作は歯科技工士、診療の補助と口腔衛生指導は歯科衛生士が行っていますが、義歯装着後の評価や機能訓練など、口腔リハビリテーションにおける適切な評価は、医科のリハビリテーションと比べて低いといえます。

したがって、本学会は、診療報酬改定における口腔リハビリテーション関連の学術的根拠を提供する専門団体としての役割を果たしたいと考えています。また、口腔リハビリテーションの

臨床と研究の領域は、歯科医師だけでなく歯科医療に携わる多くのコ・デンタル・メディカルスタッフの参画と知識やスキルの共有が必須となります。

そこで、2006年から設置している認定歯科衛生士制度のみならず、今後は看護師、言語聴覚士、理学療法士、作業療法士、管理栄養士、歯科技工士の認定制度を整備し、さらに多職種の研究の場を提供していきたいと思っています。たとえば、医科と歯科の合計23学会が参加しているICD（インフェクションコントロールドクター）協議会のICD制度のように、横断的な講習会や認定制度を学会間で共有していくことが、現場で活躍する歯科衛生士のレベルを向上させることや、歯科衛生士が活躍する場を提供していくことにもつながっていくと思います。

超高齢社会の中で口腔リハビリテーションを実践・普及していくためには、歯科医師だけでなく歯科衛生士の力が必要不可欠です。在宅歯科医療の現場できめ細かいサポートができる歯科衛生士を学会で横断的に育成していく必要があると考えています。

口腔リハビリテーション医療・医学の確立を目指す

住友：口腔リハビリテーションの領域は過渡期といえますが、貴学会の活動は今後の歯科界の活性化に必要な分野ですので期待しています。

覚道：口腔リハビリテーションの領域

は、多職種との連携なしでは発展しないと考えていますので、関連学会との連携も視野にいれて学会活動に取り組んでいきたいと思っています。

わが国は超高齢社会を迎え、よりいっそう口腔機能の回復・維持に貢献する歯科医療従事者の役割に注目が集まっています。本学会は、歯科における唯一のリハビリテーション領域の学会として、患者さんのニーズに対応できる口腔リハビリテーション医療・医学の確立を目指したいと思っています。

最後に、第29回学術大会は、きたる11月14日（土）、15日（日）の2日間、徳島県において、松香芳三大会長のもと「多職種連携による在宅医療の今後」をメインテーマに開催します。ぜひご参加いただければ幸いです。

住友：本日はありがとうございました。



日本口腔リハビリテーション学会

【会員数】496名（平成27年7月31日現在）

【機関誌】『日本口腔リハビリテーション学会雑誌』を年1回発行

【事務局】〒170-0003 東京都豊島区駒込1-43-9 駒込TSビル（一財）口腔保健協会内 / TEL: 03-3947-8891 / FAX: 03-3947-8341 / URL: www.jaor.jp/

歯科通訳（同時・逐次）

36年・10,000件以上の実績を誇ります。

03-3508-1215
trans@convention.co.jp
http://www.convention.co.jp

International Communicators
日本コンベンションサービス株式会社